

隈部氏館跡

隈部氏館跡は、中世（16世紀代）肥後の有力国衆（国人）であった隈部氏の居館跡です。山鹿市菊鹿町上永野の標高345mほどの山腹にあり、麓の高池集落から140mの高低差があります。

古くからその存在は知られており、江戸時代の書物などにも記されていましたが、昭和49～51年の発掘調査により、さまざまな遺構が良好に保存されていることが確認されました。

遺構としては、主郭入口部に枡形虎口を設け、中心部には「主殿」（公式の場）、「会所」（社交や遊興の場）、「台所」「居間」と思われる建物礎石のほか、立石組みを配した庭園跡が良好な形で残っています。また、3本の堀切があり、主郭南側の長さ75mのものが最大です。

「中世肥後を代表する隈部氏の居館であり、戦国時代の領主居館のようすを知る上で貴重」として、平成21年7月に国指定史跡となりました。

館跡の保存状況の良さは、高地に存在したことと、地元上永野地区の共有地として大切に管理されてきたことが大きな要因と思われまます。

館跡には、桜や山ツツジが植えられており、それらが開花する季節には多くの見学者を迎えます。また、館跡からの眺望はすばらしく、よく晴れた日には熊本市街、さらには島原半島の普賢岳まで望むことができます。

周辺関連遺跡地図



建物礎石跡群

南から順に、主殿（公式の場）、会所（社交や遊興の場）、台所・居間と思われる建物礎石群が残っています。



柳川隈部氏一族の墓地

平成5年、地元上永野地区により柳川市の福厳寺から移設された柳川隈部氏の墓塔群です。柳川隈部氏初代は親永の祖父の弟から出たと伝わっています。



堀切(空堀)

全体で3本の堀切が残っていますが、この堀切が最も規模が大きいものです。長さは約75mで、幅は最大20mを超えます。入口から主郭へは土橋でつながっています。



枡形虎口

敵の侵入を防ぐために設けられた、長方形の空間です。北壁と西壁の石積みは現代に積み上げられたものですが、基底部分は元から残っていたと伝えられています。



庭園遺構

池の平面形は心字形で、立石と水落石を有しています。西縁と南縁には踏石があって、庭に下りての観賞も意図されています。九州における戦国期の庭園文化を示す遺構としても評価されています。